

衆議院経済産業委員会ニュース

平成 29.5.26 第 193 回国会第 16 号

5 月 26 日（金）、第 16 回の委員会が開かれました。

1 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律の一部を改正する法律案（内閣提出第 52 号）（参議院送付）

- ・世耕経済産業大臣、高木経済産業副大臣、関環境副大臣、大串経済産業大臣政務官、比嘉環境大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行い、質疑を終局しました。
- ・畠山和也君（共産）が討論を行いました。
- ・採決を行った結果、賛成多数をもって原案のとおり可決すべきものと決しました。
（賛成—自民、民進、公明、維新 反対—共産）
- ・吉川貴盛君外 3 名（自民、民進、公明、維新）から提出された附帯決議案について、北神圭朗君（民進）から趣旨説明を聴取しました。
- ・採決を行った結果、賛成多数をもってこれを付することに決しました。
（賛成—自民、民進、公明、維新 反対—共産）

（質疑者及び主な質疑内容）

大 畠 章 宏君（民進）

- ・今般、化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律（以下「化審法」という。）の改正案が提出されるに至った背景について伺いたい。
- ・マイクロプラスチックが海中に排出されることにより引き起こされる影響について、環境省の所見を伺いたい。

鈴 木 義 弘君（民進）

- ・化審法の制定から現在に至るまでに発生した、長期毒性による人の健康や動植物への影響について、具体的に伺いたい。
- ・環境ホルモンが人の健康や動物に及ぼす影響についての調査状況について伺いたい。

小 倉 將 信君（自民）

- ・新規化学物質の審査特例制度における全国数量上限について、本改正案で環境排出量換算による算定方法を導入することを規制緩和ではなく、「規制の合理化」と称している理由を伺いたい。
- ・排出係数を設定する際に、廃棄段階の環境排出量も考慮すべきと考えるが、排出係数の算出方法について、政府の検討状況を伺いたい。

高 木 美智代君（公明）

- ・化学物質に係る規制が複雑・多岐にわたる状況で、事業者の情報入手の利便性向上を図るためにワンストップ体制の構築が重要と認識するが、世耕経済産業大臣の見解を伺いたい。
- ・環境省が実施している「子どもの健康と環境に関する全国調査」（エコチル調査）について、政府の取組み状況を伺いたい。

落 合 貴 之君（民進）

- ・全国数量上限を環境排出量換算に改正した後の安全性確保の担保の仕組みについて伺いたい。
- ・今後も新たな化学物質が出てくる中で、独立行政法人製品評価技術基盤機構の審査体制は現状で対応できているのか、また、今後、体制の見直しを行う予定について伺いたい。

田 島 一 成君（民進）

- ・本改正案が化審法の「化学物質による環境の汚染を防止する」という法目的を変更するものではないことを確認したい。
- ・少量新規化学物質及び低生産量新規化学物質の届出・申出の際に化学物質の用途情報を厳密に把握するための体制構築に係る検討について、開始時期及びスケジュールを伺いたい。

木下智彦君（維新）

- ・今回の化審法改正の理由として、製造・輸入量の数量調整によりサプライチェーン全体でビジネス機会を喪失していることが挙げられているが、具体的事例を伺いたい。
- ・国際的な動物実験削減の流れの中で、新規化学物質の有害性審査において動物実験に代わる技術の開発状況について伺いたい。

真島省三君（共産）

- ・化審法制定の背景となったカネミ油症事件の被害から得た教訓及び化審法の原点について、世耕経済産業大臣の見解を伺いたい。
- ・複数の化学物質による相互作用に関する科学的知見がない中において、単体の化学物質に環境排出量換算基準を導入することは環境負荷の増大に繋がるのではないかと考えるが、世耕経済産業大臣の見解を伺いたい。